

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	二チイのほほえみ防府		
所在地	山口県防府市敷山町14番1号		
電話番号	0835-26-6871	事業所番号	3590600114
法人名	株式会社二チイのほほえみ		

訪問調査日	平成 20 年 11 月 17 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 5 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤	6 人 非常勤 5 人 (常勤換算 11 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	~ 2 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	60,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無	
食費	朝食	200 円	昼食	280 円	
	夕食	320 円	おやつ	円	
その他の費用	1日	631 円			
	内訳 光熱水費、その他の日常生活費				

(4) 利用者の概要 (11月17日現在)

利用者数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
	要介護1	3	要介護4	1		
	要介護2	2	要介護5			
	要介護3	3	要支援2			
年齢	平均	83 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 ひらた内科呼吸器科医院 歯科 深野歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

職員は利用者と密接にかかわり、笑顔があふれるホームになるよう支援されておられます。利用者の日々の様子を申し送りや個人ファイルなどで共有し、歩行時の介助や安楽な体位で食事やお昼寝ができるよう、利用者に寄りそった支援をしておられます。家族会行事には地域の方も大正琴の演奏などで参加され、今まで歌われなかった利用者が演奏に合わせて歌われるなど、地域との交流が良い刺激になっており、積極的に地域との交流をされておられます。

(特徴的な取組等)

1階の小規模多機能型施設と日頃から交流があり、グループホームの利用を検討されている場合は、家族と話し合っ、「通い」の時間帯にホームで過ごされたり、職員も小規模多機能型施設に出向いて、日頃から馴染みの関係づくりをしておられます。職員の異動時は、1カ月間重複勤務をされて、利用者へのダメージを防ぐ配慮をされておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

今回がはじめての評価となります。

(今回の自己評価の取組状況)

管理者は、評価を業務を振り返る場として捉え、管理者と計画作成担当で話し合っ作成され、その後、職員に回覧されています。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催し、メンバーは民生委員、町内会役員、老人会会長、市地域包括支援センター職員1名~2名、家族、ホームの管理者、計画作成担当者、職員で、暮らしびりや行事報告などで意見や要望を聞き、サービスに活かすよう取り組まれています。

(家族との連携状況)

利用者は近郊の方が多く、面会も頻繁にあり、面会時や電話等で利用者の日々の様子や健康状態を伝えたり、介護計画を話し合い、希望や要望が言えるよう取り組まれています。3ヶ月に1回開催される家族交流会には多くの家族が参加され、地域の方も参加して大正琴の演奏などされています。

(地域との連携状況)

老人会会長さんの計らいで、地域の「盆踊り」に参加したり、家族交流会のお楽しみ会に、地域の方もホームに来られるなど、お互いに交流し、親しみのある顔馴染みの関係ができています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「高齢者の尊厳と自立を守る」という理念のもと、1人ひとりを大切にし、その人らしい暮らしができるよう支援している。	・地域密着型サービスとしての理念の見直し
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を掲示し、申し送り時に理念を唱和し、職員間で共有し、実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、盆踊り等の地域行事に参加したり、家族交流会に地域の方が参加されて大正琴の演奏など、地域の人と交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を業務を振り返る場として捉え、管理者と計画作成担当者と話し合っって作成され、その後、職員に回覧している。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回開催し、メンバーは民生委員、町内会役員、老人会会長、市地域包括支援センター職員、家族、職員で、暮らしぶりや行事報告などで意見や要望を聞き、サービスに活かすよう取り組んでいる。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当課とは、運営推進会議の他、サービス体制の確認や報告などの情報交換をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時、電話、3ヶ月に1回開催される家族交流会等で利用者の日々の様子や健康状態を伝え、希望や要望を聞きながら話し合っている。職員の異動なども報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話、家族交流会等で気軽に言えるように話しかけ、要望や意見を聞いている。苦情や相談等の対応は、申し立て窓口や外部機関、第三者委員を明示し処理手続きを定めている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	非常勤を含め11名の職員を確保し、管理者は、各スタッフの事情に応じて勤務体制を柔軟に組み替え働きやすい環境を整えている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は必要最小限にとどめ、馴染みの職員から利用者が安心して支援が受けられるよう配慮している。異動の場合は重複勤務を1カ月間行ない、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で新人研修や段階に応じた研修が計画されており、受講している。外部研修も勤務の一環として参加したり年休で参加できるようにし、職員の育成に取り組んでいる。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修会に参加して情報交換している。他施設からの見学もあり、交流している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	併設の小規模多機能型施設の「通い」の時間帯の利用者との交流や、見学や体験入所などで、馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	利用者から調理の味付けを学んだり、昔話や体験談を聞いたり、利用者と一緒に洗濯物をたたんだり、掃除などをして支え合う関係を築いている。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日々のかかわりの中で、利用者の希望や意向を把握し、「個人ファイル」や「管理日誌」「気づきノート」などに記録し、共有している。困難な場合は、家族と相談したりして、本人本位に検討している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	月1回ホーム会議でカンファレンスを行ない、介護計画作成担当者が中心となって話し合い、利用者・家族の意見等も反映した介護計画を作成している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	カンファレンスで話し合って、3か月に1回介護計画を見直している。状況の変化が生じた場合は、家族や関係者と話し合っ新たな計画を作成し職員が共有している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	医療機関や理美容院への送迎支援、買い物、懐かしい場所へのドライブなど、柔軟な支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診は家族の希望を大切にしている。受診は家族に依頼し情報交換をしている。緊急時や家族の都合がつかない場合は、家族と話し合い適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期には、他の医療機関等を利用するなど、契約時に家族に説明しており家族も納得されている。職員も方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ホーム内研修でプライバシー保護について学び、日々の言葉かけなどを確認し、記録等は個人情報の取り扱いに注意し、施錠できる場所に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間も自由で食事ゆっくり食べられる方もおられるなど、一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしができるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むき、炒め物などの調理、食事の準備、片付けなど、利用者の出来ることを搜して利用者と職員と一緒にやっている。食事は職員が同席して、ゆったりした雰囲気ですぐ残食のないよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は、毎日14時～17時まで可能であり、利用者の希望や体調を確認し、入浴表に記入しながら入浴を支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌を歌ったり、編み物をしたり、編み物を眺めたり、テレビを視聴したり、体操などをして楽しんでいる。食事の準備、配膳、片づけ、掃除、お花の水やり、めだかの餌やりなど活躍できる場面を提供し支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、家族と一諸の日帰り旅行や、散歩、ドライブなど、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人内の「高齢者虐待防止マニュアル」に基づき、ホーム会議の中で管理者が指導し、全職員が理解し共有している。抑制や拘束はしていない。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアに取り組んでいる。設地場所が道路に面しているため、利用者の状況によっては、交通安全上、やむ迫えず短時間玄関の施錠をすることもある。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人内の「緊急時対応マニュアル」に基づき、事故防止の取り組みをしている。「転倒防止」研修を受講し、インシデント、アクシデントに分けてノートに掲載し、月1回チェックし事故防止に努めている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	ホーム会議で、看護師から応急手当等について学び、消防署の「普通救急講習」を全職員が受講している。急変時は、看護師に相談し対応している。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1回昼間を想定した火災・避難訓練を、消防署の協力で民生委員と一緒にしている。避難場所の位置を確認している。	・地域の協力が得られる体制づくり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は「個人ファイル」に綴じ、全職員が内容を把握し理解している。服薬は、手渡しで服用を確認し、必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりのペースに合わせた歯磨きの支援をしている。歯ブラシや義歯の清掃、消毒、保管の支援をしている。年1回歯科医師の往診による歯科健診をし、随時、訪問治療も行なわれている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立表の点検をし、食事・水分摂取量を個人ごとに記録して状況を把握している。トロミ剤を利用したり、刻み食等個人の状態に応じた食事が出来るよう支援している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	「感染症対策マニュアル」があり、全職員がマニュアルに従い、手洗いを徹底するなどの予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂は、日当たりのよい明るい場所に配置され、食事時間だけでなく利用者の憩いの場としての役割をしており、リクライニングチェアが置かれ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室空間は広く、馴染みの家具やベット、椅子などが持ち込まれ、家族の写真を飾ったりして、その人らしい部屋で居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	ほほえみ防府
所在地	山口県防府市敷山町14-1
電話番号	0835-26-6871
開設年月日	平成 19 年 11 月 1 日

【サービスの特徴】

お一人おひとりの心身の状態とその方の生活歴を尊重したなじみの生活環境作りに配慮し、住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気の下、スタッフと共に調理や洗濯など、役割を持って、日常生活を継続できるよう支援する。

【実施ユニットの概要】 (10 月 1 日現在)

ユニットの名称	ほほえみ防府			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	名	男性 3 名	女性 6 名	
	要介護 1	3	要介護 4	1
	要介護 2	2	要介護 5	
	要介護 3	3	要支援 2	
年齢構成	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 92 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者、計画作成担当者と確認
評価確定日	平成 20 年 11 月 17 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		「誠意・誇り・情熱」のもとで高齢者の尊厳と自立を守る企業理念を定め、「お客様第一主義」の介護の提供に努めている。
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		ユニットに理念を提示するとともに、毎朝、朝礼時に唱和し理念の共有化とケアへの具体的な実践に努めている。
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		ユニットに経営理念を提示している。
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		職員全員と共に熱意を持って取り組んでいる。
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		理念を掲示し、来訪された方に理解して頂けるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		隣近所の方々が気軽に立ち寄れるように常に玄関をオープンにし、下校時の小学生は頻繁にトイレを借りに来ている。その為地域の方々には喜んで頂いている。
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		町内会への加入、盆おどり等の行事参加、地域住民のホーム見学、地域住民ボランティアの受け入れなどにより地元の人々との交流を深めている。
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		自治会の諸行事や町内一斉清掃に参加、地元の人々との交流をふかめている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義や自己評価については、職員間で話し合い取り組むようにしている。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2カ月に一回、包括支援センター職員、民生委員、町内会役員、ホームの管理者、およびスタッフ、ケアマネージャーをメンバーとして会議を開催し、ホームの現況説明や行事の報告などを行い、意見や助言などを受けてホームの運営に活かしている。	地域に密着した会議とするために、町内会長やご近所の人などの地域代表の参加を実現するとともに、会議結果の職員への周知する。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者とは運営推進会議等を通じて接触はあるが、やや事務的となっているので、今後は日常的な問題にも助言を受けられるよう緊密な連携をとりたいと考えている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	今のところ該当する方はいないが、職員全員で理解するまでには至っていない。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議等で虐待の防止について学ぶ機会がある。職員間で気をつけるように注意を払っている。	虐待の防止については頻繁に話会っていく機会を設けていく。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が契約内容、重要事項説明を行い、疑問点や不安を解消出来るよう十分な説明を行い理解、納得してもらえるよう努めている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常のかかわりの中で、利用者の言葉や態度からくみとるようにし、運営推進会議等で表せるようにしている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の来訪時に面談し利用者の近況報告を行うようにしている。また、利用者の状況の変化など必要に応じてその都度電話などで報告、相談を行うようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要求に応じて開示している。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。出された意見、要望は真摯に受けとめ、職員にも伝え、ケアやホームの運営に反映させるよう取り組んでいる。		「意見箱」を玄関に設置し面と向かって言いにくい意見も吸い上げる姿勢を表している。
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議等でテーマを決めて勉強会を行い、意見や提案を開くようにしている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の日常生活の中で、出来る限り自由な暮らしを支えられる様、利用者の状態に合わせたローテーションを組んでいる。状況に応じた柔軟な対応が出来るような体制に努めている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	顔馴染みの職員により利用者や家族との信頼関係を築くことが重要と考えている。職員の異動があれば利用者へのダメージを防ぐために職員同士でフォローし合えるように心がけている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修はパート職員を含め、随時行う。研修報告などによる全員のレベルアップを図っている。		外部研修も今後は出来るだけ多くの職員に参加してもらいたい。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	年代、性別に偏りがないよう配置している、また経験年数も考慮している。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	学習会や研修に参加し、サービスの質の向上に努めているが、地域の同業者とのネットワークづくりや勉強会、交流が現在のところ出来ていない。		グループホーム連絡会に属し研修会への参加を積極的に勧めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		利用者様から多くのことを学び、成長していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時にはホームでの暮らしぶりなどを報告し、相談したりして共に考えている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	行事や誕生会にご家族を誘ったりしながら、より良い関係が築いていけるよう努めている。		遠方でなかなか来て頂けない家族の方にも出来るだけ声掛けをしていきたい。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人等との面会も自由に行っていたいっている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を見極めた上で、リビングの席を決めたり配慮している。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要に応じて電話連絡をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で言葉や表情などから確認するようにしている。		出来るだけ意向に沿うようにしている。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人から情報を聞き取る様にしている。入居後も折に触れ、ご本人やご家族から生活習慣等を聞くようにしている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの食事・睡眠・排泄の時間・生活習慣等、生活リズムの理解に努め、得意なこと出来ること等、有する力の把握に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に一度の見直しと介護保険更新時、また心身の状態に変化が生じた際には、随時ケアプランを見直している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録や送り等で情報共有を行うと共に、毎日の朝礼やカンファレンスで協議している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	相談を受けた時、出来る範囲で行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に民生委員の方には出席して頂いている。消防署立会いの上、消防訓練を行ったりしている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域の方の見学が、いつでも出来るよう開放している。また、実習生・ボランティア等も受け入れをしている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	訪問理容サービスを利用してもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。個人情報の取り扱いに関しては、慎重に取り組むようにしている。	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	利用者様に合わせて声をかけ、些細なことでも本人が決める場面を作っている。	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	日常生活の中で掃除・料理・洗濯等利用者の得意分野で、力を発揮してもらっている。	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	基本的な一日の流れは持っているが、一人ひとりのその日、その時の思いや状態に配慮しながら柔軟に対応している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	ご本人の好きで整えられるよう支援しているが自己決定が難しい場合は職員と一緒に考えて本人の気持ちに沿った支援が出来るよう努めている。なじみの美容院に行かれる方もいる。難しい方は理容店にホームに来てもらい散髪している。	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	野菜の皮むきや盛り付けをして頂いたり、片付けをしている。	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	希望があれば出来るだけ対応するようにしている。	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄チェック表を使用し、尿意のない方にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		男性の方にも活躍できる場面づくりをしていきたい。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		全員がピクニックしたり、季節ごとに散策する機会を増やしたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		暑中見舞いや年賀等、季節の挨拶から行いたい。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		現在希望はないが、希望があれば対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	家族交流会・誕生会などの行事に参加して頂いている。	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	勉強会等により職員が理解している。	
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけずに支援しているが、時には入居者様の状態により玄関のみ施錠することもある。	職員が見落とさない見守り支援に努めたい。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	一人ひとりの居場所を確認している。夜間は数時間毎様子を確認し、起きられたらすぐに対応できるようにしている。	
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品については手の届かない場所に置いてある。その時に応じた対応をしている。	
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者様の状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。	
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	ホーム会議で応急手当等の勉強会を実施し、緊急時対応については職員に周知徹底している。	救急救命講習の受講を行っていきたい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	職員間で情報を共有し、ヒヤリはっと報告書を記入してもらいファイルしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		人員不足が予測されるので、地域の方々の協力を得られるような働きかけをしていきたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関内外に椅子を置き、いつでも座れるようにしている。玄関内には花や盆栽などで、温かみを出している。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	廊下に写真を飾ったり、利用者の手作りの作品を飾り、親しみやすく家庭的な雰囲気作りをしている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室で過せたり、リビングではご自分のいい場所に座り、気の合った者同士で過している。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や思い出のある生活用品を持ち込み、利用者の生活スタイルに合った居室作りをし、写真を飾るなどして居心地良く安心して過せるように配慮している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓を開け、換気に努めている。外気温と大きな差がないように配慮している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	バリアフリー設計で、共有部分や浴室トイレ内に手摺を設置し、出来ることは自分でして頂けるよう配慮している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの場所は目印をつけて分かりやすくなっている。居室にも表札を設けている。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	隣が中学校なので、体育の授業やクラブ活動の際、観戦できるようにしている。	玄関外は前が道路でベンチもなくゆっくり過ごせる場所がないので、外気を感じながらゆっくり過せるベンチを作りたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない